

# メチルクロロホルムの分解度試験成績報告書

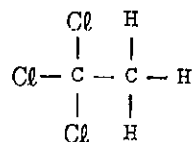
1. 試験期間 昭和54年1月11日～昭和54年3月10日

2. 試料名 メチルクロロホルム(1,1,1-トリクロルエタン)

(試料名 K-20)

分子式  $C_2H_3Cl_3$

構造式



性状 外観 無色透明な液体 分子量 133

沸点 74℃ 比重 1.311

溶解性 n-ヘキサン アセトニトリルに可溶

水に20℃で0.44%(W/W)可溶

(XXXXXXXXXX使用)

## 3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
薬 発 第 615号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による  
49基局 第392号 }

試料濃度 100 ppm 汚泥濃度 30 ppm

試験期間 2週間

## 3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機(揮発性物質用クロマトー使用)

## 3.2 酸素消費量測定

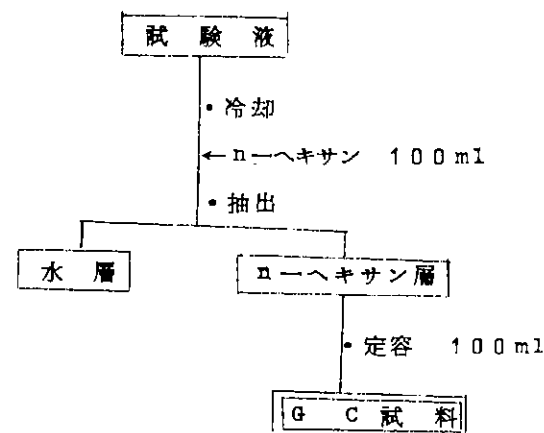
3.1の記録による

## 3.3 生分解試験後の直接定量法

### (a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

### (b) 分析試料の前処理



### (c) 分析条件

ガスクロマトグラフ(GC)検出器 FID

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 15% TCP/クロモソルブW

ステンレスカラム 3 mmφ×2m

カラム温度 80℃

#### 4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	—
G C による結果	0	2	1

#### 5. 備 考

##### 試料の採取

比重を考慮し、23  $\mu$ l 採取した。

( 23  $\mu$ l  $\times$  1.311 = 30.2 mg 相当 )

##### クーロメーターへのセット状況

	状 況	pH
仕 込 時	粒状で沈降した	—
途 中	—	—
終 了 時	試料特有の臭いがした	—

以 上

図-1

No. \_\_\_\_\_

Date 2.5 ~ 2.20 1970

Test Temp. 25 °C

Model Coulometer No. 203

Range 250 ppm × 1

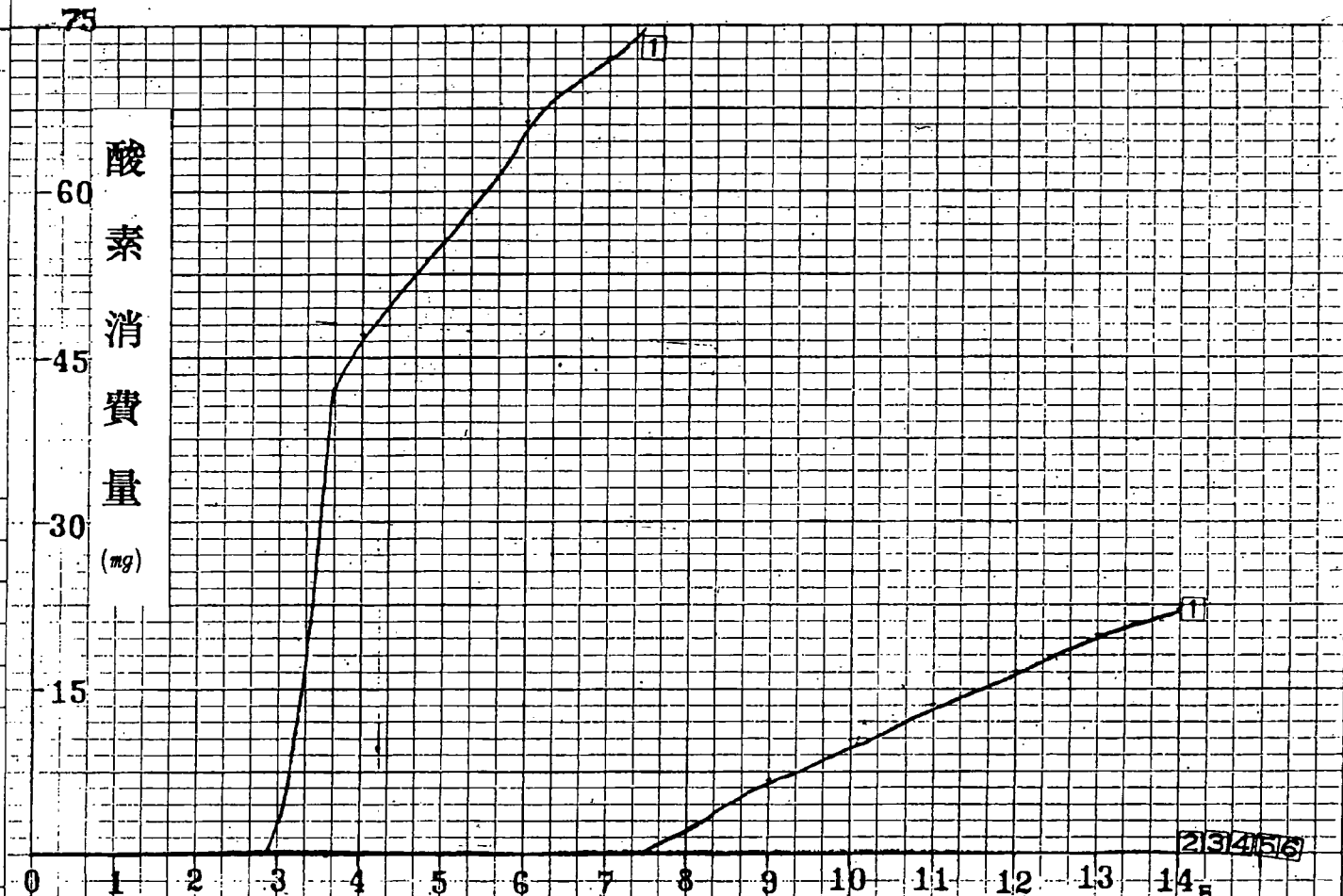
Chart Speed 2 mm/h

Sample	Sludge (ppm)
1 アニリン (100 ppm)	30
2 基礎呼吸 (- ppm)	30
3 汚泥+試料 (100 ppm)	30
4 汚泥+試料 (100 ppm)	30
5 水+試料 (100 ppm)	-
6 水+試料 (100 ppm)	-

Note: K20: 1.11-11701V1970

Operator \_\_\_\_\_

酸素消費量 (mg)



(財) 化学品検査協会 化学品安全センター

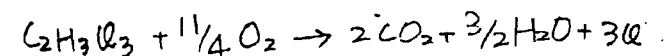
$$\text{分解度} = \frac{\text{BOD} - \text{B}}{\text{TOD}} \times 100 = \frac{0}{19.9} \times 100 = 0\%$$

ただし

$$\text{BOD} - \text{B} = \frac{3 + 4}{2} - 2 = \frac{0 \text{ mg} + 0 \text{ mg}}{2} - 0 \text{ mg} = 0 \text{ mg}$$

$$\text{TOD} = 23 \times 1.311 \times 0.66 = 19.9$$

なお、



$$\frac{1\frac{1}{4}\text{O}_2}{\text{C}_2\text{H}_3\text{Cl}_3} = \frac{1\frac{1}{4} \times 15.999 \times 2}{133.404} = 0.66$$

7日目のアニリンの分解度 78.1 %